

# 經濟論叢

第117卷 第5・6号

---

## 哀 辞

故岸本英太郎教授遺影および原稿

社会・技術システム論の発展と

作業組織の再編成……………赤 岡 功 1

合衆国の大規模農場経営の位置と

その階級的性格(1)……………中 野 一 新 20

日本帝国主義下の中国北部占領地域開発の

「統合調整」と北支那開発株式会社……………鈴木 茂 46

価値と分配について……………岡 本 義 行 72

「不変資本充用上の節約」の位置と構成……………吉 田 文 和 92

ホップズ社会哲学形成史における「歴史」の意味……………田 中 秀 夫 112

## 記 事

岸木教授逝く

追 憶 談 (渡部 徹・向井喜典・長谷川雅哉)

故岸本英太郎教授略歴・著作目録

---

昭和51年5・6月

京 都 大 学 經 濟 學 會

## 岸本先生をしのんで

長谷川 雅 哉

岸本先生、どうしてこんなに早く逝かれてしまったのですか。私たちは先生からまだまだたくさんのことを学びたかったです。

先生の持っておられる知識のどれだけを私たちは身につけることができたでしょう。先生の学者としての学問に対する情熱、そして大学教授としての私たち学生に対する情熱、その情熱を私たちはしっかりと受けとめ、自身へのかたとすることができたでしょうか。ともすれば私たちは先生の情熱に圧倒されがちでした。何とか御自分の身につけておられる知識を伝えたいとされる先生にとって、私たちは物足りない学生だったかもしれません。しかし、それでも先生は懸命に講義をなさいました。講義に熱が入ってくると、両手を前に出して盛んに動かされたあの御姿が思い浮かびます。体をお悪くされた後も、1時間半の講義の間、休む間もなく熱心にしゃべり続けられたあの御姿、学問に対する厳しい態度を、私たちは決して忘れてはならないと思います。

学問に対する厳しい態度とは対照的に、私たち学生に対しては、実に優しく接してくださいました。私たちと個人的に話している時には、教室の講義では絶対見られないあの笑顔で気さくに話してくださいました。もちろん、先生から厳しい口調で注意されたようなことは一度もありませんでした。常に、物静かに悟すように語られました。以前はよく先生の御宅でゼミナールが開かれたようですし、またつい最近まで、私たちゼミ生が個人的に先生の御宅を訪れることもしばしばでした。そんな時には、いっそう先生の温和な人柄が強く感じられたものです。先生は個人の自由を尊重され、各自の自主性にまかすという指導方針をとっておられたようです。あまり細かい事をとやかく言われなかったのです、私たちは、つい自己に対する厳しさに欠けてしまうことがありました。先生の優しさに私たちは甘えすぎているかもしれません。ゼミナールでは、私たちが勉強不十分のため、発表が未熟なものに終わることがあります。そんな時、先生はその未熟さを補って余りある説明をなされ、私たちはただそれに聞きいるばかりでした。また

先生の質問に対して答えることができなくなって押し黙っていると、しばらく黙って微笑んでおられ、そしてまた一人で話をお始めになりました。先生の熱心さに比べ、今思えば恥ずかしい限りです。しかし、先生にお世話になって、たとえわずかでも先生のすばらしさを吸収できたことに感謝したいと思います。岸本先生、どうもありがとうございました。

ご冥福を祈ります。

昭和51年3月26日